

# 白川静のことば

《38》



金子都美絵・画

成

セイ・ジョウ  
なる・なす  
(ジャウ)

成

平

平

ヘイ・ベン・ヒョウ  
たいらか・たいらげる・  
やすらか・ひとしい  
(ヒヤウ)

平は手斧てあきの形である。基本の字形は于ゆで、于は先端がゆるく曲った刃器の形である。木などを刮くりるときに用いる器である。刮は夸こに刀を加えた字であるが、その刃形はすでに亏くとして夸こに含まれているのであるから、刮は重複じゅうふの字である。于に大きな把手てを加えたものが夸こ、それを用いて刮りとするのである。

成は一般に成功・成就の意をもつ好字とされて、平とともに年号にも用いることが多い。

成は聖器としての成なりに、お札をつけたような字であると考えてよい。摩天楼まてんろうのような建物を建てる時にも、人びとは注連しゆめを張り、「しで」を垂らして成なり。成は聖器にその「しで」を垂らした形である。買ったての新車にも、まずお札をうけてくる。その専門の神社もある。成の字が生まれた時代と同じように、呪禁・修祓しゆはつの法は、今の生活のなかにも生きていっている。

ねがわくは平も成も、その字の初義のままに、平は手斧の素朴さを、成は神かけて祈るつましさを、いつまでも保ちつづけてほしい。

これらの字を、再び戦争のための字に用いることのないようにねがうのである。平成元年八月

